

## 大学生の避妊に対する意識・行動に関する報告 — A大学の学生を対象とした調査報告—

今野 洋子\*

### 要 約

本報告は、大学生の避妊に対する意識・行動の実態を明らかにするとともに、現代の若者の性に関する諸問題等に対応できる避妊教育の方向性を考察するものである。

札幌市近郊のA大学の学生を対象として、質問紙による集団調査を行った結果、以下のことが明らかになった。

- ① 避妊に関する意識が高く、相手の身体を思いやり、人間関係を大切にしながら、避妊行動を選択する意識がみられる。しかし、その一方で、相手任せの面もあり、場当たりの避妊行動をとる面もみられる。
- ② 避妊に関する正しい知識を持っている者が多いが、男女差があり、男子のからだのしくみに対する理解が浅いため避妊に関する誤った知識を持っている。
- ③ 「交際相手がいる」者は、全体で4割程度であるが、「性交経験がある」者は、全体の6割を占める。また、性交した相手の数は「1人」あるいは「2人」と回答した者が多いが、「6人以上」という者が1割以上で、性行動は活発化傾向にある。
- ④ 実際に用いている避妊法は、「男性用コンドーム」「膈外射精」が多い。活発化する性行動に比べ、避妊法は画一的であり、また不確実な面がうかがえる。今後用いたい避妊法は、「男性用コンドーム」「経口避妊薬」を希望する者が多く、「入手しやすい」「費用が安い」「使用が簡単」「確実性が高い」避妊法が求められていることがわかった。

確実な避妊行動の選択を可能にするためには、「避妊の意義や相手に与える影響」を考えさせること、女子ばかりでなく男子についても「からだのしくみ（生理的知識・科学的知識）」を十分理解させること、「若者に適した確実な避妊法」を普及させることが必要であろう。

性教育が、現在の学生の性行動・性意識を規定するのみにとどまらず、次代を担う子どもたちを創る原動力であることを踏まえ、豊かな性と生の教育を構築していきたいと考える。

---

\*北海道浅井学園大学人間福祉学部福祉心理学科

キーワード：避妊に対する意識、避妊行動、性教育

## I はじめに

近代の日本における社会環境や生活様式の変化は、少子高齢化や人間関係の希薄化、高度情報化・国際化を生み出した。これらは、思春期の子どもたちの価値観を大きく変え、子どもたちの意識や行動に深く影響を及ぼしている。

特に、現代の青少年の性に対する意識や価値観は多様化しており、青少年の性意識および性行動は著しく変化している。このような変化に関して、青少年の「性行動は開放的で積極的な傾向を示す」ことが数多く報告されている。<sup>1)</sup> また、高校生の性交経験率が上昇傾向にあり、性行動の「低年齢化」が指摘されている。<sup>2)</sup> さらに、女子の性行動の積極化・自由化など、女子の性意識や性行動の変化についての報告が多くあり<sup>3)4)5)6)</sup>、性意識や性行動に関して男女差は見られなくなっている。

これらの変化は、若い世代の人工妊娠中絶の増加や性感染症の増加等、深刻な心身の健康障害を引き起こすこととなっている。

現代日本における人工妊娠中絶（以下、中絶とする）件数は、年間約35万件と多く、先進国の中で異例に高い割合を占めている。その中で、10代の未婚女性の中絶件数は、全体の10%強を占めている。最も多いのは、30歳以上の女性の中絶件数であり、46.6%と半数近くを占めている。経済的にも恵まれており、既婚者も多く、結婚年数を数年経過したであろう既婚者間においても高い中絶件数は、成人男女における「避妊に関する意識の低さ」「避妊行動の難しさ」を示す指標のひとつとして考えてもよいだろう。このような

成人が多い日本において、（学校教育・家庭教育・地域教育を含め）教育を受けてきた若い世代は、避妊に関して、どのような知識や意識を持ち、行動しているのだろうか。

中絶にいたる、つまり避妊がうまくできない場合というのは、大別すると以下の二つの理由からなる<sup>7)</sup>。ひとつは、避妊に関する知識に乏しい、あるいは誤った知識を持っているという知識の不正確さによるものである。もうひとつは、知識が正確であっても、ふたりの間で正しい避妊法を使うことができる関係にないため行動できないことによる。こうした知識や意識の確立と行動獲得は、どのように結びつくのであろうか。たとえば、高等学校の保健体育科の保健領域では、必ず「家族計画」を扱うものとされており、高校卒業時には、家族計画に関する知識を持っているはずである。しかし、その知識や学習経験はどれほど深化され、どのように行動化されるのであろうか。あるいは、行動化に結びつくものは何なのであろうか。

以上のことを踏まえ、本研究において、大学生を対象として避妊に関する意識・行動調査を実施することによって、避妊に関する知識・意識・行動の実態について明らかにし、避妊に関する安全な行動獲得のメカニズムについて考察することを目的とする。

いうまでもないことであるが、性に関する調査は、多くの方の協力なしには実施することが難しい。高度なプライバシーに属する性の問題について、情報を提供していただいたA大学の学生の皆様、調査にご協力いただいた教職員のみなさまに心よりお礼を申し上げます。

## Ⅱ 対象および方法

### 1. 調査対象

調査対象は、札幌近郊のA大学の学生とした。

質問紙の回収率は100%であった。

全て無回答の8名を除き、有効回答者数は962名、有効回答率は、99.2%となった。

有効回答者の内訳は、男子211名・女子730名、性別不明21名である(表1)。調査対象者の平均年齢は、18.9歳であった。

表1 有効回答者数の内訳

内 訳	人数 (名)	割合 (%)
男 子	211	21.9
女 子	730	75.9
性別不明	21	2.2
合 計	962	100.0

### 2. 調査方法

調査方法として、調査対象学生に対して、集合調査を実施した。つまり、調査担当者が教室におもむいて簡単な説明を行った後、質問紙に回答を記入してもらい、回収した。所要時間は、約10分前後であった。

回答にあたっては、無記名とした。

調査期間は、2002年6月6日から、6月14日とした。

質問紙における調査内容の主なものは、以下の通りである。

- (1) 避妊に関する意識
- (2) 避妊に関する知識
- (3) 避妊行動

全質問数は5問であり、以下のことがらについて、調査した。

- ① 避妊に関する考え
- ② 正しい避妊法に関する知識
- ③ 避妊に関する知識や情報を何から(あるいは誰から)得たか
- ④ 性行動の実際(交際相手の有無・性交経験の有無・これまで性交した相手の人数)
- ⑤ 現在用いている避妊法および今後用いたい避妊法

これらに関する具体的な質問内容については、図1に示す(図1参照)。

図1 質問紙

1. 避妊に関してのあなたの考えをお聞きます。あなたが「そう思う」と考えられるものに、いくつでも○をつけてください。

①相手が誰であっても避妊はすべきである  
 ②酔った勢いやノリで始めた性交でも必ず避妊する  
 ③相手が避妊に対して消極的であれば説得して避妊する  
 ④コンドーム等の避妊具は常に携帯している  
 ⑤交際相手のことを愛していても、避妊には気をつけたい  
 ⑥自分が（または相手が）妊娠するのは困るから避妊する  
 ⑦交際相手への愛情が深いほど、避妊をすべきである  
 ⑧交際相手が避妊に積極的（あるいは協力的）であれば避妊する  
 ⑨交際相手が避妊に対して理解がないので避妊したくてもできない  
 ⑩予期しない性交では避妊まで気がまわらない  
 ⑪一度くらい避妊をしないからといって、なんの問題もない  
 ⑫避妊しようとするのは、相手を愛していないからである  
 ⑬避妊のことを考えると性交の楽しさが半減する  
 ⑭コンドームなどの避妊具がなければそのまま避妊せず性交する

2. 避妊に関する情報についてお聞きます。あなたが正しいと思う避妊方法は、どれですか？ 正しいと思うものにいくつでも○をつけてください。

①男性用コンドームは性交の途中から装着しても十分な効果がある  
 ②性交の後の膣洗浄は避妊法として有効である  
 ③膣外での射精は避妊法として有効である  
 ④水中での性交は、避妊法のひとつとして効果がある  
 ⑤安全日に性交するのであれば妊娠の心配は全くない  
 ⑥低容量の避妊ピルは、薬局で買うことができる

3. 避妊に関する教育などについてお聞きます。あなたが避妊に関して得る情報や知識は、誰によるもの、あるいは何によるものですか？ いくつでも○をつけてください。

①学校教育：A中学；A1保健 A2その他（ ）  
 B高校；B1保健 B2その他（ ）  
 C大学；C1講義 C2その他（ ）  
 ②家庭教育：父・母・兄弟・姉妹・その他（ ）  
 ③マスメディア：TV・インターネット・本・その他（ ）  
 ④友人 ⑤交際相手 ⑥その他（ ）

4. 性交経験についてうかがいます。

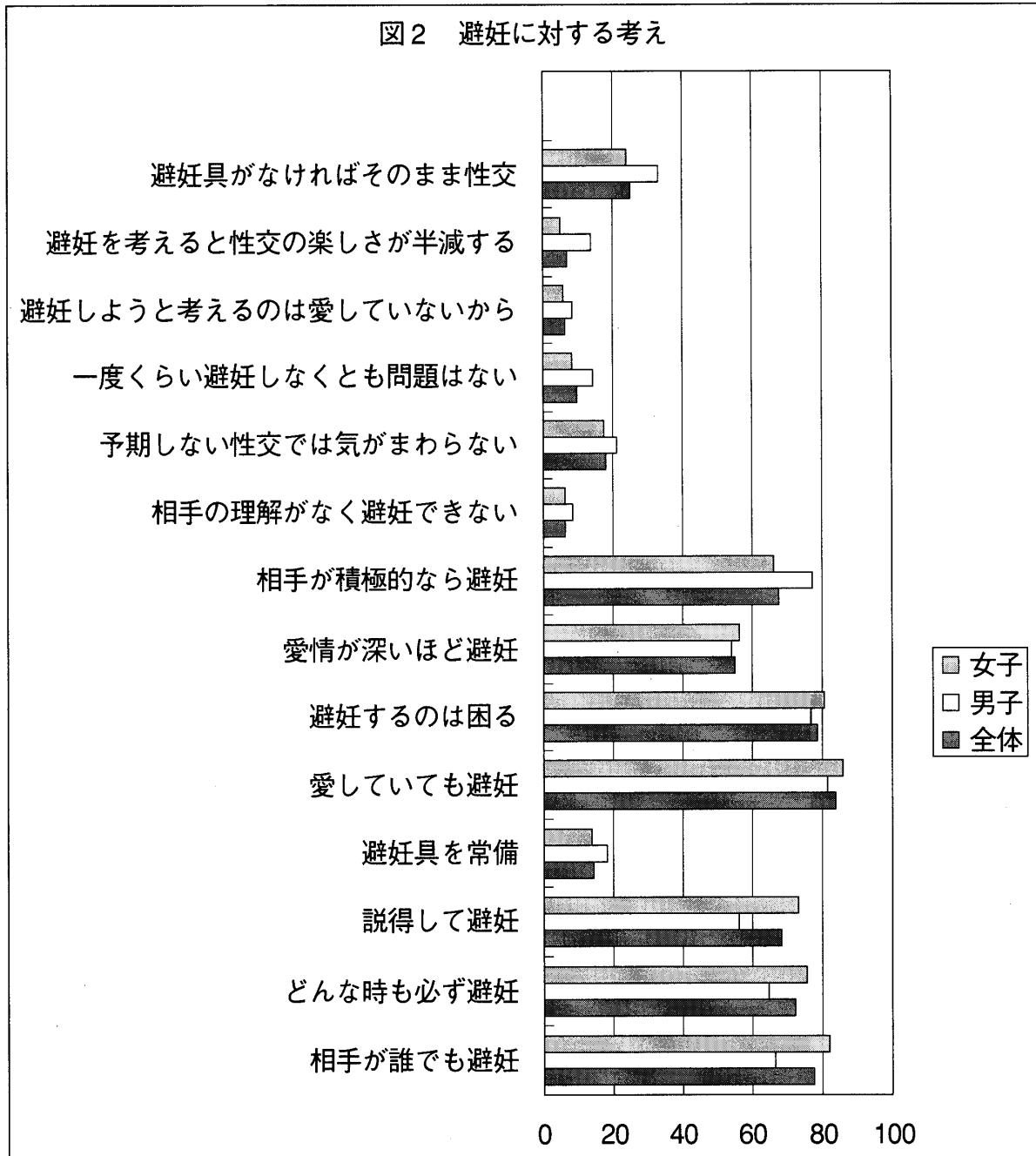
(1) 現在交際している人はいますか？ ①いる ②いない  
 (2) 性交経験がありますか？ ①ある ②ない  
 (3) 上記の(2)の質問で①と答えた方のみ、お答えください。  
 性交した相手の数は、何人ですか？ あてはまるものに○をつけてください。  
 ①1人 ②2人 ③3人 ④4人 ⑤5人 ⑥6人 ⑦7人 ⑧8人 ⑨9人  
 ⑩10人 ⑪（ ）人 ⑫覚えていない ⑬数えることができない

5. あなた（と相手）が用いている避妊法について○をつけてください。  
 また、今後用いてみたい避妊法について○をつけてください。

	現在の避妊法	今後用いたい避妊法
①膣外射精		
②性交後の膣洗浄		
③リズム法（基礎体温法等）		
④男性用コンドーム		
⑤女性用コンドーム		
⑥殺精子剤（避妊ゼリー等）		
⑦低容量の避妊ピル		
⑧その他（ ）		

### Ⅲ 結果と考察

#### 1. 避妊に関する考え



避妊に関する考えについて、全体的にみると、「交際相手のことを愛していても、避妊には気をつけたい」と回答した者の割合が最も多く83.8%であり、次いで「自分が（または相手が）妊娠するのは困るから避妊する」

78.6%、「相手が誰であっても避妊はすべきである」77.4%であった。（図2参照）。また、「酔った勢いやノリで始めた性交でも必ず避妊する」72.0%、「相手が避妊に対して消極的であれば説得して避妊する」68.3%、「交

際相手への愛情が深いほど避妊をするべきである」55.3%と多く、相手との人間関係を大切にした上での避妊行動を選択しており、避妊に対して積極的な様子がうかがえる。避妊に対して否定的あるいは消極的な回答は少なく、「避妊のことを考えると性交の楽しさが半減する」6.9%、「交際相手が避妊に対して理解がないので避妊したくてもできない」6.4%、「避妊しようとするのは、相手を愛していないからである」6.4%であった。

しかしながら、「交際相手が積極的（あるいは協力的）であれば避妊する」67.9%と回答した者が多く、「コンドームなどの避妊具がなければそのまま避妊せず性交する」25.4%、「予期しない性交では避妊まで気がまわらない」18.2%、「一度くらい避妊をしないからといって、なんの問題もない」9.8%ということから、相手本位の避妊行動であったり、場当たりの避妊行動をとるなど、実際に確実な避妊行動を選択することの難しさを感じ取ることができる。また、「コンドーム等の避妊具は常に携帯している」は14.4%と低い。

これらのことから、大学生の避妊に対する意識は高く、相手の身体を思いやる、相手を説得するというように人間関係を大切にしながら、避妊行動を選択する意識があるが、その一方で相手任せの面もあり、場当たりの避妊行動をとる面もみられる。

男女別にみると、女子の方が男子よりも「避妊」に対する意識が強い。

日本性教育協会の1999年調査においても、避妊に対する意識の高さが見られる<sup>8)</sup>。避妊実行率は、「いつもしている」が男子66.0%、女子65.9%である。避妊をする理由として最

も多かったのは、男女ともに「子どもができて育てられないから」であり、男子が98.2%、女子が84.2%である。次いで、男子の場合「相手の身体を思いやって」53.4%、また、「当たり前のことだから」45.4%と続く。女子の場合は、「当たり前のことだから」63.2%、「後でめんどうなことになると困るから」44.7%となっている。日本性教育協会の1999年調査でも、避妊をどちらから言い出すかという質問では、男子は「自分から」が最も多く60.1%であるのに対し、女子は20.2%と低い<sup>9)</sup>。これらの調査に比べ、本調査では女子の方が男子よりも「避妊」に対する意識が強いという点で相違がみられる。

## 2. 避妊に関する知識

### 2-1. 避妊に関する正しい知識を持っているか

避妊に関する知識について、選択肢それぞれの割合をみると、「男性用コンドーム使用は性交の途中から装着しても十分な効果がある」12.5%、「性交後の膣洗浄は避妊法として有効である」11.3%、「膣外での射精は避妊法として有効である」18.9%、「水中での性交は、避妊法のひとつとして効果がある」1.9%「安全日に性交するのであれば妊娠の心配は全くない」6.5%、「低容量の避妊ピルは薬局で買うことができる」19.1%という結果になった。

選択肢のいずれもが誤答であることから、避妊に関する正答率は81.9%~93.5%と高く、避妊に関する知識はほとんど正しく把握していることがわかった。

項目ごとに誤答した割合を見ると、男子の方が女子よりも誤答した者が多かった。特

に、「膣外射精」「コンドーム使用」についての誤答では、差が大きい。

「性やからだのしくみについての理解が乏しいため、避妊の失敗に通じ、とくに問題につながりやすい事柄」<sup>10)</sup>として、以下のことが挙げられている。

- 〔1) 射精以前に精子が漏れ出ている場合があること
- (2) 排卵後、卵子は24時間ほどしか寿命がないがその時期を特定しにくいこと
- (3) ピルの解禁の問題（正しく知ることを前提として）
- (4) 精管結紮手術について

(5) その他、薬品等による長期にわたる避妊法について

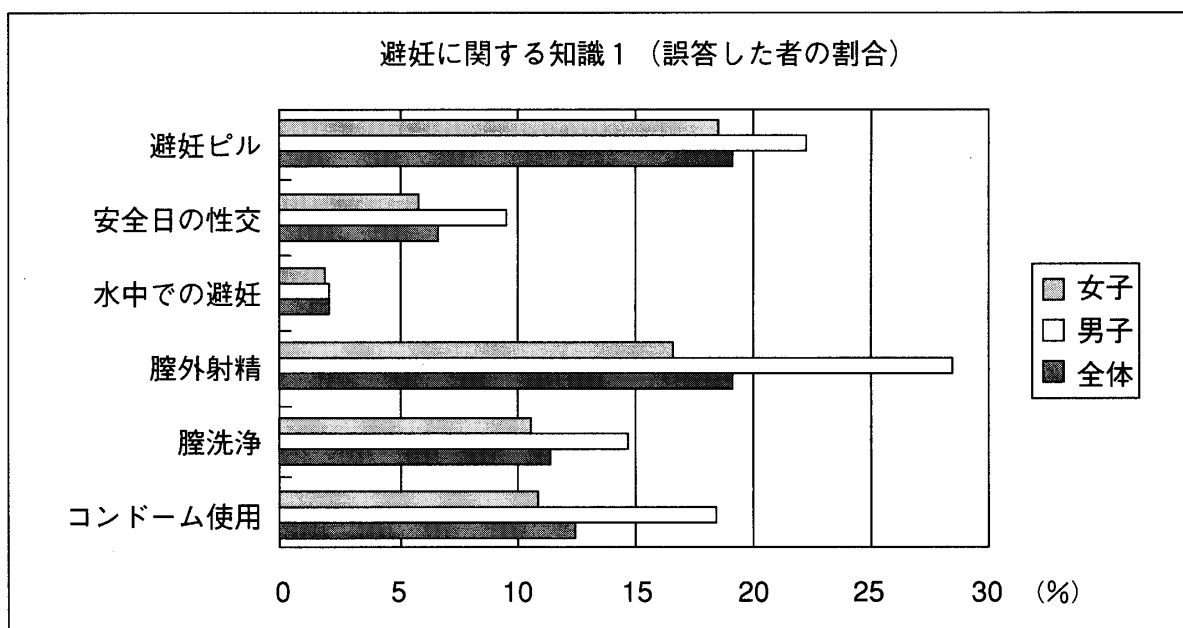
(6) 事後の避妊法について<sup>11)</sup>

本調査においては、「(1)射精以前に精子が漏れ出ている場合があること」に関する知識が乏しい者が多く、特に男子に多い。

射精する当事者であり、男性用コンドーム使用の主体者である男子の方に誤答率が高いということは、誤った避妊行動や避妊の失敗の要因のひとつと考えられよう。

また、このことは、男子のからだのしくみについてより理解を深められるよう、教育内容を検討すべきことを示唆している。

図2 避妊に関する知識（全体および男女別）



## 2-2. 避妊に関する知識を何から（誰から）得たか

避妊に関する知識を何から（誰から）得たかについては、「学校教育」が最も多く、約半数を占めた。次が「マスメディア」、「友人」と多かった。

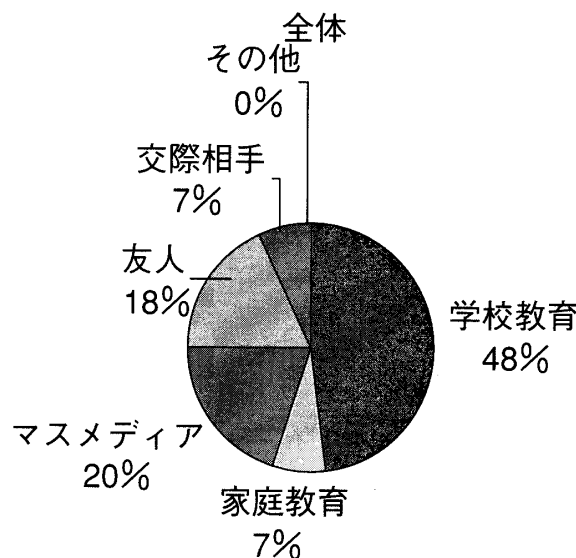
男女差はほとんどみられなかった。

1999年の日本性教育協会の調査では、避妊に関する教育を学校で教わった大学生は、男子59.4%、女子59.3%と、約6割を占めている<sup>12)</sup>。また、性について知りたいことがらとして、避妊に関することを挙げた男子は27.9%、女子は41.8%であった。このことに対し、「具体的なテーマに関しては、学校の性

教育の内容に満足しているものも多いが、ある者にとってはまだ不十分であった」<sup>13)</sup>と結論づけている。つまり、「例えば『コンドーム』というものがどういう目的をもつものであるか、ということは教えられても、実際どのように使用するのかということは教えら

れない。実際の使い方がわからないということは、結局教わったことが役に立たない。そのため、マスコミや友人などから伝わってきたあいまいで、間違っただけの本物のことと信じてしまう危険性が示唆されたのである。」<sup>14)</sup>という指摘である。

図3 避妊に関する知識を何から得たか



### 3. 性行動の実際

#### 3-1. 交際相手の有無

交際相手についてみると、「交際相手がいる」と答えた者は、全体で37.5%であり、「交際相手がない」と答えた者は全体で53.8%、無回答が8.8%であった。「交際相手がない」と回答した者の方が、「交際相手がいる」と回答した者を上回る結果となった。

「交際相手がいる」と回答した者の男女を比較してみると、男子の方が女子よりも多く、男子46.9%、女子が35.2%であり、男子の方が女子よりも「交際相手がいる」者が多かった(図4参照)。

1999年の日本性教育協会の調査では、「いま、恋人と呼べるような異性の友人がいますか」という質問に対して、「いる」と回答し

た大学生は男子35.1%、女子39.4%であり、本調査と異なった傾向を示している。<sup>15)</sup>

#### 3-2. 性交経験の有無

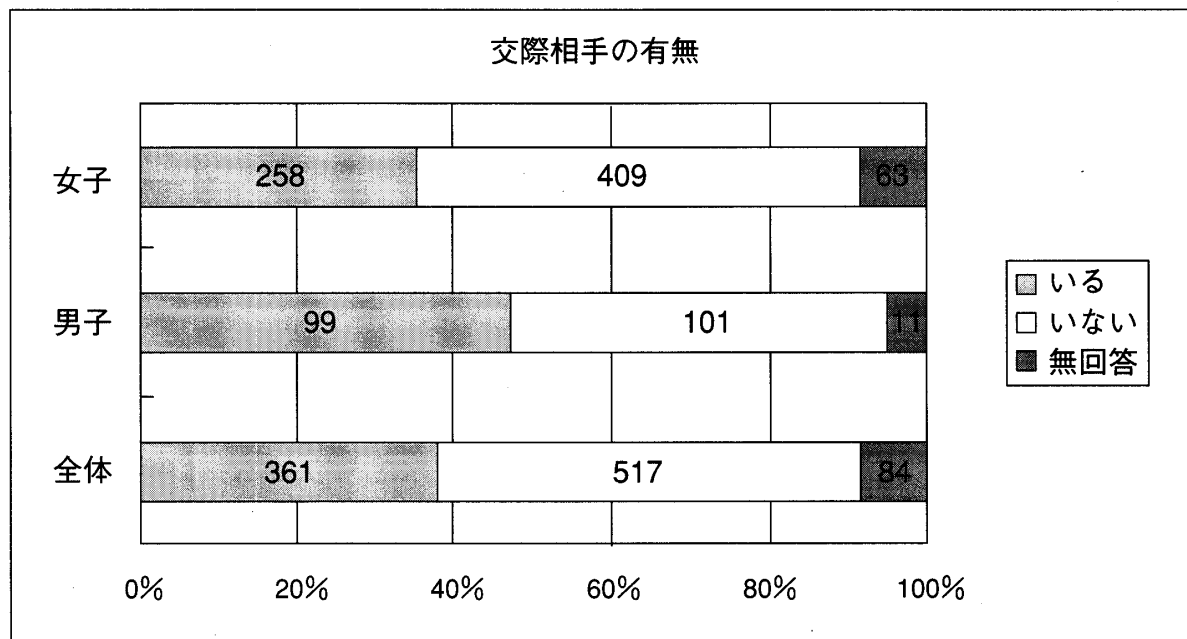
性交経験の有無についてみると、「性交経験がある」と回答した者が61.3%で、「性交経験がない」と回答した者は28.7%、無回答が11.0%であった。(図5参照)。「性交経験あり」と回答した者の方が、「性交経験なし」を上回る結果となっている。

男女別にみると、「性交経験あり」と回答した者は、男子75.8%、女子56.7%であり、男子の方が女子も多い。「性交経験なし」と回答した者は、男子17.5%、女子32.1%であった。

2001年12月に、同A大学の学生を対象に性交経験の有無について調査したところ、「性



図4 交際相手の有無



交経験がある」と回答した者が全体で61.8%であり、また、男女別にみると、男子の方が女子を上回っており、男子79.1%、女子58.2%という結果を得た。

日本性教育協会による「1999年版児童・生徒の性」<sup>16)</sup>では、高校生の性交経験者の増加が見られ、特に、女子が男子を上回る結果となっている。この調査の中で、中学生・高校生の「性交経験」についてみると、中学生・高校生の男女ともに学年が進むにつれて増加傾向を示している。特に、高校生の増加傾向が顕著であり、男子では高校2年生から3年生の間に12%増、女子では高校1年生から2年生の間に12.5%増となっている。また、高校3年生では、男子が28.6%に対し女子34.0%と女子が男子を上回る結果となっている。

また、1994年に日本性教育協会の行った調査によると、大学生の男子57.0%、女子43.0%が性交を経験しており、同協会による1999年の調査では、男子50.5%、女子62.5%と女

子が男子を上回る結果となっている。この調査結果と本調査の結果を比較すると、本調査においては、女子が男子を上回る結果とはなっていないが、大学生全体で見ると、性交経験のある大学生が増加傾向にあることが明らかになった。

### 3-3. 性交した相手の数

性交した相手の数についてみると、全体では、「1人」と回答した者が最も多く、31.6%あった。次に多かったのが「2人」であり、13.9%であった。(図6参照)。

「6人以上」は、全体で11.7%であった。わずかではあるが、「覚えていない」4.5%、「数えられない」3.4%であった。

図5 性交経験の有無

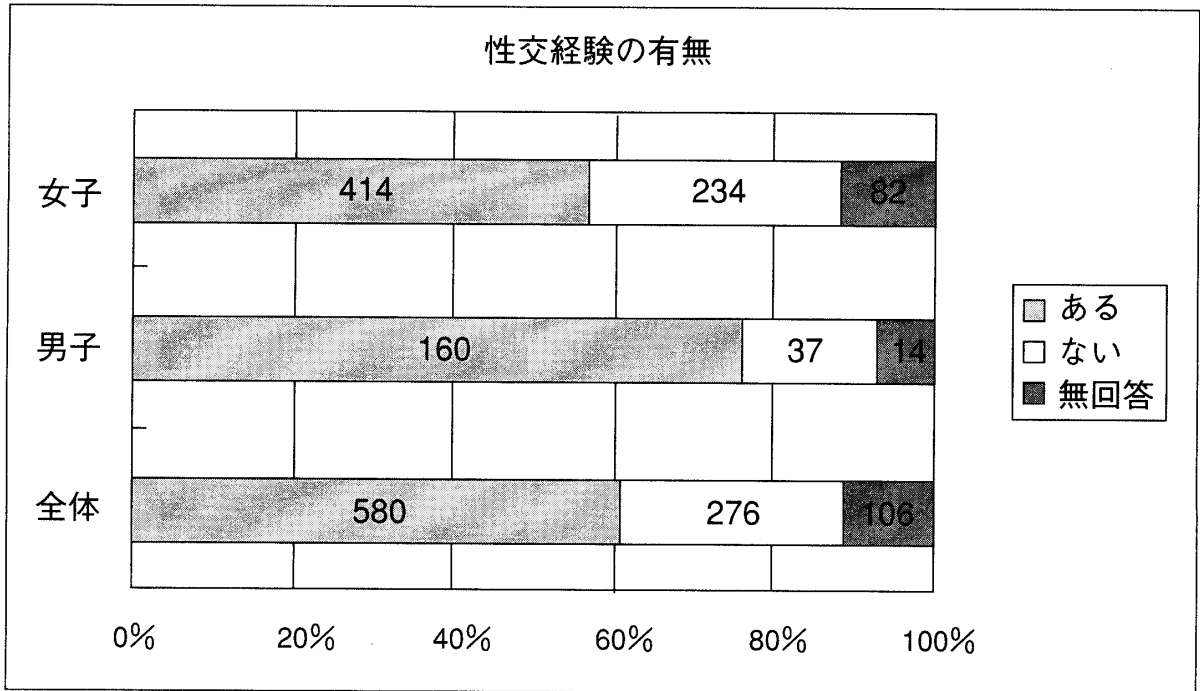
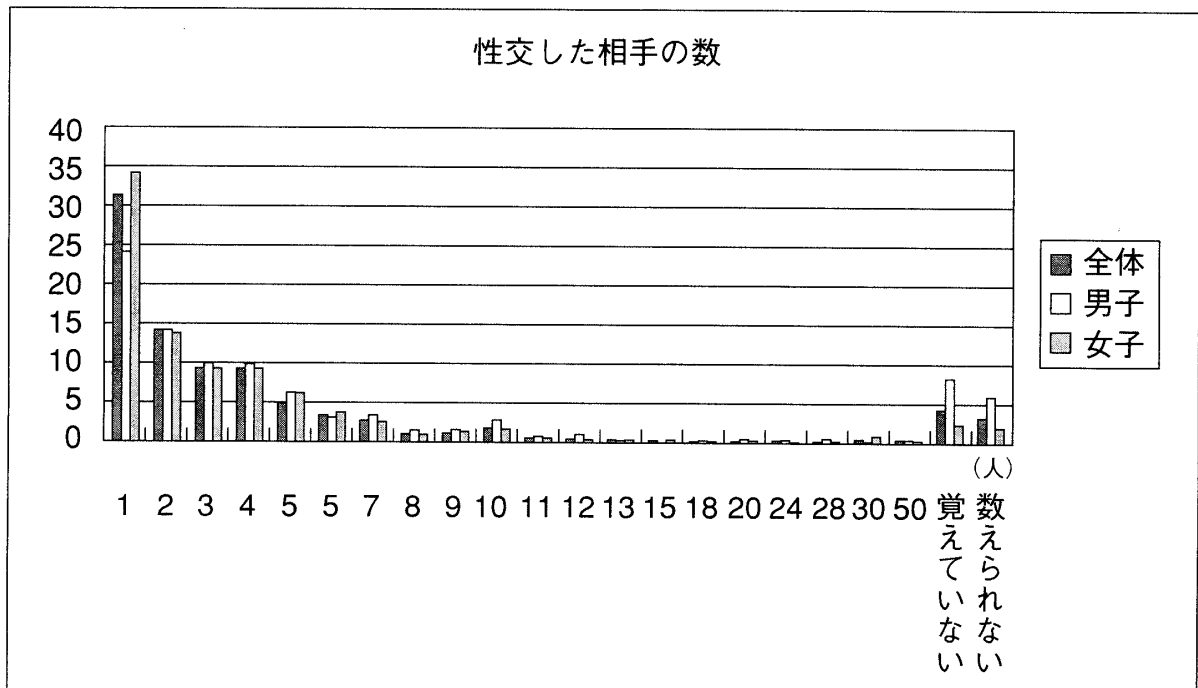


図6 性交した相手の数



男女別にみると、男子では「1人」と回答した者が最も多く24.4%、次に多かったのが「2人」・「3人」でともに14.1%であった。

女子では「1人」と回答した者が最も多く34.6%、次に多かったのが「2人」で13.4%であった。「6人以上」は、男子16.0%、女子10.7

%であった。また、「覚えていない」は男子8.9%、女子2.8%、「数えられない」は男子6.4%、女子2.3%であった。女子より男子の方がやや分散傾向にあるが、男女ともに両極化傾向がみられる。

1999年に日本性教育協会が行った調査によると、大学生の男子が性交した相手の数は、最も多かったのが「1人」で34.8%、「2人」31.0%、「3人」12.9%であった。女子は、最も多かったのが「1人」で39.4%、次が「3人」16.9%、次いで「2人」16.0%であった。「6人以上」と回答したのは、男子5.7%、女子5.2%であった<sup>17)</sup>。本調査の結果と比較すると、本調査の方が性交した相手の数が多く、性行動の活発化がうかがえる。

#### 4. 用いている避妊法の実際

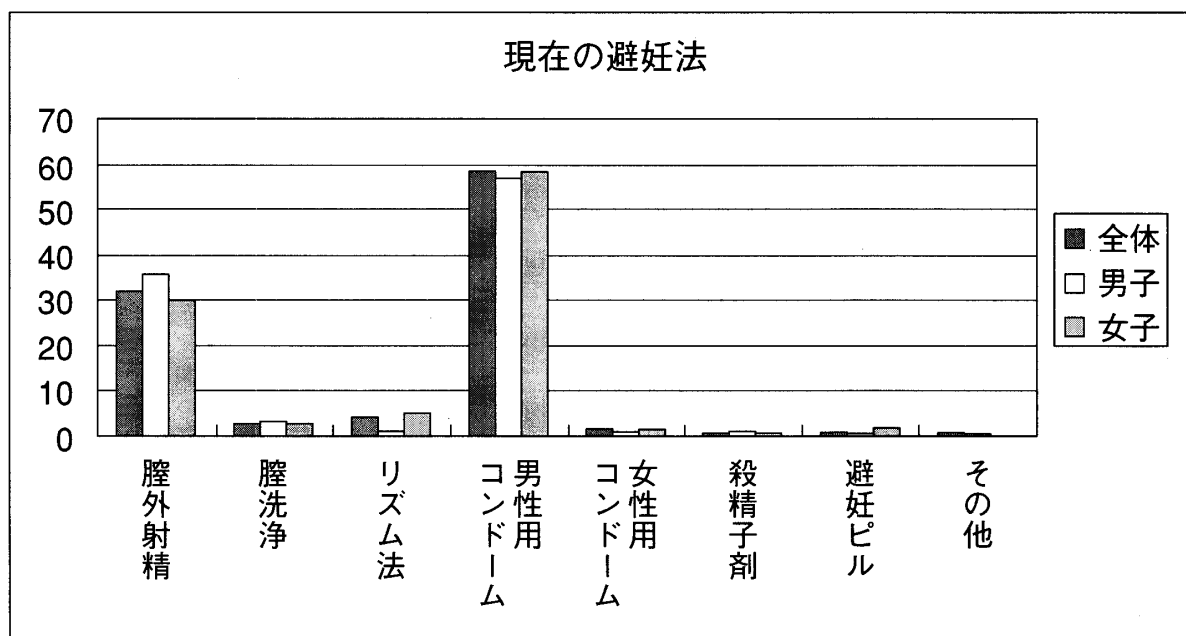
##### 4-1. 現在用いている避妊法

実際に用いている避妊法については、最も多かったのが「男性用コンドーム」で、58.6%を占める結果となった。次に多かったのが「膣外射精」で、31.9%であった(図7参照)。

男女別にみると、「男性用コンドーム」は男子57.1%、女子58.4%であり、「膣外射精」は男子35.6%、女子30.2%であった。また、ごく少数であるが、「経口避妊薬」は男子0.5%、女子1.7%であった。

A大学における2001年度の調査では、「男性用コンドーム」は87.4%を占め、その他の避妊方法はほとんど用いられていなかった。また、この時の調査において、「経口避妊薬」は、1.1%の女子のみであった。

図7 現在の避妊法



1999年9月、日本でも低容量ピルが発売されるようになり、確実性の高い避妊法が日本国内でも可能となっているが、性行動が活発

な若い世代の避妊の選択肢としては普及していないのが現状であることがわかった。また、青少年に限らず、厚生省の2000年「日本

人のHIV/STD関連知識、性行動、性知識についての全国調査」の調査においても、約90.0%が「(男性用)コンドーム」を使用していることが報告されている。<sup>18)</sup>

避妊法においてコンドームが占める割合に注目すると、全世界で10.2%、開発途上国で5.2%、先進国24.4であるのに比べ、日本は77.7%と著しく高く、避妊法の約8割を占めている。

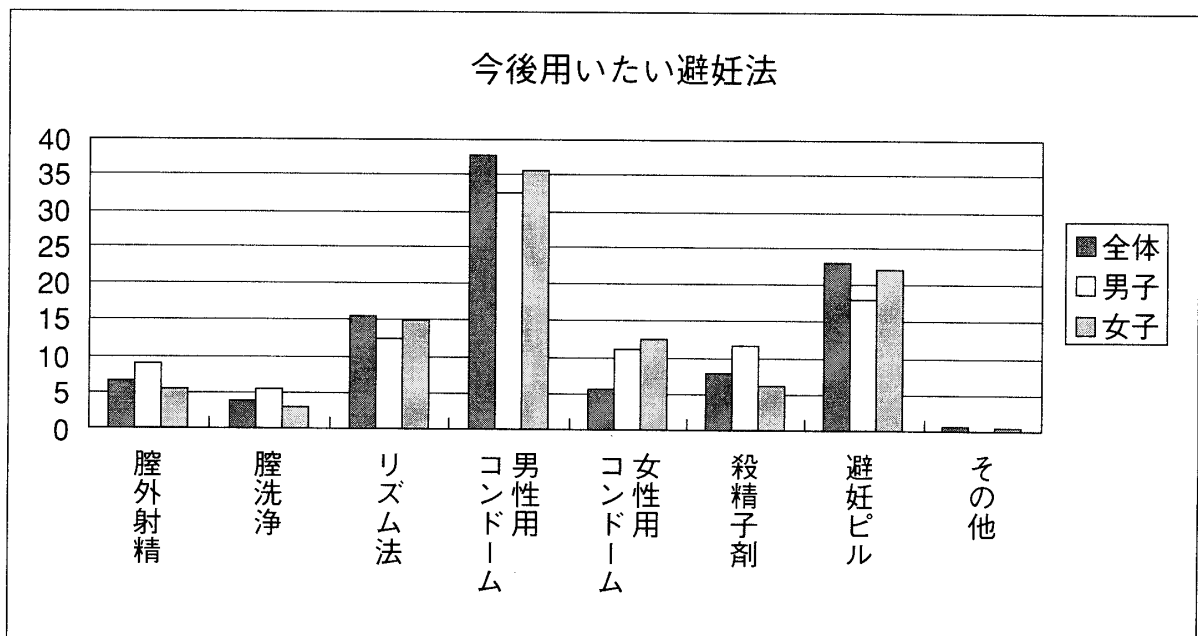
世界的な見地から、避妊方法の実態についてみると、避妊法や実行率はさまざまであり、先進国では、ピル・コンドーム・その他を含め、避妊法の選択の幅が広い。諸外国では、年代別に避妊の選択パターンが異なり、その世代の性行動に合わせて避妊方法を選んでいることが報告されている。<sup>19)</sup> 中・高生のころは、二人の性のコミュニケーションがう

まくはかれず、避妊について話せないが、性交の回数は多いので、この場合、避妊ピルを選択する。出産後性交の回数が減り、毎日飲むピルの手間を省きたいときはIUDを選択、もう妊娠を望まない場合は不妊手術を選択する等である。現代は、確実に妊娠を避け、二人のコミュニケーションをより深める関係を築き、自分の性行動に合った避妊が選べる時代<sup>20)</sup>であるにも関わらず、日本では、世代に関わらず、コンドームというひとつの方法のみに頼っていることが、明らかになった。

#### 4-2. 今後用いたい避妊法

今後用いたい避妊法としては、最も多かったのが「男性用コンドーム」で37.7%であり、次に多いのが「経口避妊薬」で22.8%であった(図8参照)。

図8 今後の避妊法



男女別に見ると、「男性用コンドーム」は男子32.4%、女子35.6%であり、「経口避妊薬」は男子17.9%、女子22.0%であった。

今後用いたい避妊法に関しては、「男性用コンドーム」および「経口避妊薬」を希望する者が多い。これは、求められる避妊法とし

て、「入手しやすい」「費用がかからない（安い）」「使用が簡単」「確実性が高い」ものが求められていると考えてよいのではないか。

また、一人ひとりがさまざまな方法を挙げており、複数の方法を併用していきいたいという考え方も含まれているのではないか。

## 5. まとめ

本調査における結果を項目ごとにまとめると、以下のようになった。

① 避妊に関する意識が高く、相手の身体を思いやる、相手を説得するというように人間関係を大切にしながら、避妊行動を選択する意識がみられるが、その一方で、相手任せの面もあり、場当たりの避妊行動をとる面もみられる。

② 避妊に関する正しい知識を持っている者が多いが、男女差があり、男子のからだのしくみの理解が浅いために避妊に関する誤った知識を持っている。

③ 交際相手についてみると、「交際相手がいる」と答えた者は、全体で37.5%であるが、「性交経験がある」と回答した者が61.3%と、性交経験者の割合は全体の6割を占める。また、性交した相手の数は、「1人」あるいは「2人」と回答した者が多いが、「6人以上」という者が1割以上で、性行動は活発化傾向にある。

④ 実際に用いている避妊法は、「男性用コンドーム」が約6割で最も多く、次が「膣外射精」で約3割であった。活発化する性行動に比べ、避妊法は画一的であり、また不確実な面がうかがえる。今後用いたい避妊法は、「男性用コンドーム」「経口避妊薬」を希望する者が多く、「入手しやすい」「費用が安

い」「使用が簡単」「確実性が高い」避妊法が求められていることがわかった。

つまり、本調査から、以下のことがらを結論づけることができる。

男子のからだのしくみの理解が浅いために、誤った知識を持っている者もいるが、概ね、大学生は避妊に関する知識が豊かで、正しい知識を持っている。また、避妊に対する意識も高い。しかし、相手任せの行動や場当たりの行動をとる者も少なくなく、確実な避妊行動が獲得されているとは言い難い。また、大学生は、「入手しやすい」「費用が安い」「使用が簡単」「確実性が高い」避妊法を望んでいるが、実際にこのような避妊法が存在しないことから画一的で不確実な避妊法であっても用いているという実態がある。

確実な避妊行動の選択を可能にするためには、「避妊の意義や相手に与える影響」を考えさせること、女子ばかりでなく男子についても「からだのしくみ（生理的知識・科学的知識）」理解をさせること、「若者に適した確実な避妊法」を普及させることが必要であろう。

また、本調査については、日本の制度的背景や大学生の特色をより鮮明にするため、セクシュアリティ研究教育の推進が著しいオーストラリアのクィーンズランド州の大学生に対する調査を実施し、比較検討を行うことを今後の課題としたい。さらに、セクシュアリティがその国の文化や制度など社会的影響を大きく受けることから、アジア・アフリカ等の各国の実態についても調査し、国際比較検討を行うことを希望している。

#### Ⅳ おわりに

避妊教育を含め、思春期の子どもへの性と生の教育に対し、おとなである私達は、責任を持ち、その責任を果たさなければならぬ。

なぜならば、性と生の教育は、目の前の、思春期の子どもの性行動・性意識を規定するのみにとどまらず、次代を担う子ども達を創る原動力となるからである。

たとえば、日本においては、中絶件数が多いだけでなく、「予定外の妊娠によって生まれた子ども」も多い。このように人生の最初から歓迎されることなく生まれた者は、自己肯定感が低く、他人と信頼関係を作ることの難しい人間になりやすいという指摘があり、このような孤独で自己肯定感の低い人間と犯罪との関連が言及されているところである。望まない妊娠・出産をした親の側も、生まれてきた子どもに愛情が持てず、虐待につながりやすいことも指摘されている。避妊行動を確実にすることは、これらの問題の改善にも結びつき、人間のよりよい生き方や、安全で幸福な社会の構築に貢献することができると思われる。

つまり、性行動は、今後の社会・文化を形成する主体者の育成に深く関わっており、脈々と続く人類の歴史に大きく関わるものと考えらるべきである。そのため、性と生の教育で扱う避妊とは、どう生きるかという人生そのものをも意味する。

#### 引用参考文献

- 1) 日本性教育協会編：青少年の性行動—わが国の高校生大学生に関する調査報告，小学館，1994
- 2) 同上
- 3) 原純輔：青少年の性行動と性意識20年の軌跡，現代性教育月報，13（12），pp. 1～3，1995
- 4) 佐藤龍三郎他：高校生性の知識・性役割観・性行動に関する研究（第一報），思春期学，13（3）pp. 243～248，1995
- 5) 木村龍雄：本学学生の性意識・性行動の実態に関する研究，高知大学教育学部研究報告，第一部，第49号，pp. 93～108，1994
- 6) 東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会編：児童・生徒の性，学校図書，1996
- 7) 村瀬幸治：ニューセクソロジー・ノート，十月舎，p. 38，2001
- 8) 日本性教育協会編：「若者の性」白書—青少年の性行動全国調査報告，小学館，2001
- 9) 同上
- 10) 前掲書7) pp. 39～40
- 11) 同上
- 12) 前掲書8) pp. 74～76
- 13) 同上
- 14) 同上
- 15) 前掲書8)
- 16) 東京都幼・小・中・高・心障性教育研究会編：児童・生徒の性，学校図書，1999
- 17) 前掲書8)
- 18) リプロヘルス情報センター編：リプロダクティブヘルス，活発化する若者の性行動，日本人のHIV/STD関連知識，性行動，性意識についての調査，2001

- 19) 小田洋美：性を楽しむためにピルをゲットしよう！, Human Sexuality, No. 28, 東山書房 pp.70～75, 2000
- 20) 内野英幸：予防教育としての性教育, 健康な子ども No. 356, pp18～23, 2002
- 21) Family Planning Perspectives Vol.32 No 5, Sexuality Education; Our Current States, and an Agenda for 2001
- 22) 高知県健康福祉部こども課・青少年福祉班編：思春期の生・性を考える会 資料3, 若年者の実態調査結果について, 2001
- 23) 日本性科学学会セクシュアリティ研究会編：カラダと気持ち, 三五館, 2002
- 24) ビヤネール多美子：スウェーデンの性と性教育, 十月舎, 2000
- 25) 中山千夏監修：性と生をどう教えるか, 開放出版社, 2000

## A Study on the Contraceptive Awareness and Behavior among University Students

Yoko IMANO

### ABSTRACT

Contraceptive awareness and behavior among university students were studied for the better sex education including education for contraception. Research was conducted on both the male and female students of a university in the suburbs of Sapporo and the following results were obtained :

- 1) Their contraceptive awareness was high. They had proper contraceptive behavior that considerate the good understanding of their partner. On the other hand, they entrusted the contraceptive behavior to their partner and they had the act haphazardly.
- 2) They had a very good knowledge about the contraceptive. Girls were better versed in the contraceptive than boys. But there were not certainly conversance with the contraception because they may lack knowledge on construction of boys' body.
- 3) About 40.0% of subjects had partners, and 60.0% of subjects had sexual experience. Those who had sexual experience with more than six persons were over 10.0%.
- 4) The contraception that they use as usual were "condom" and "withdrawal". They hoped to use "condom" and "pills". The best contraception was "easy to get", "low cost", "easy to use" and "certainty" contraception.

The following must be emphasized in sex education including contraception :

1. Sexual behavior including contraception requiring good understanding of partners.
2. Good knowledge on construction of body.
3. To promote the spread of good contraception.

We must establish better sex education because sexual awareness and sexual behavior relate to student lifestyles and the future of the next generation.

**Key words :** the contraceptive awareness, the contraceptive behavior, sex education